

令和5年度 第1回 立川市スポーツ推進審議会 会議録

(基本情報)

会議名称	令和5年度 第1回 立川市スポーツ推進審議会
開催日時	令和5年9月6日（水曜日） 午後7時00分～午後9時00分
開催場所	立川市泉市民体育館 研修室
次第	1 辞令伝達 2 挨拶 3 委員の紹介 4 会長、副会長の選出について 5 スポーツ推進審議会委員について 6 立川市第4次長期総合計画と第2次スポーツ推進計画の関係について 7 立川市第2次スポーツ推進計画の進捗状況について 8 今後の予定について 9 各委員からの情報提供等 10 その他
資料	資料1 立川市スポーツ推進審議会委員名簿 資料2 立川市スポーツ推進審議会条例 資料3 立川市スポーツ推進審議会施行規則 資料4 スポーツ推進審議会委員について 資料5 立川市第2次スポーツ推進計画の実施状況 資料6 立川市第2次スポーツ推進計画（令和5年度）の取り組み予定 資料7 立川市第3次スポーツ推進計画策定スケジュール（予定） 資料8 今後の開催日程と検討内容について 参考資料1 スポーツ基本法条文 参考資料2 スポーツ基本法概要 参考資料3 第3期スポーツ基本計画概要（国） 参考資料4 東京都スポーツ推進総合計画 参考資料5 立川市第2次スポーツ推進計画（冊子）
出席者	[委員] 原田 尚幸、芦澤 清八、松原 幸子、福原 憲生、永島 康雄、渡邊 健太、 原 宏樹、森川 良行、山浦 拓也、出倉 光一 [事務局] 田中 良明（副市長）、井上 隆一（産業文化スポーツ部長）、中村 達也（スポーツ振興課長）、上野 聖（管理係長）、木村 誠（スポーツ振興係長）、秋元 公貴（主査）小山田 久（スポーツ振興係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
担当	産業文化スポーツ部スポーツ振興課スポーツ振興係 電話 042-529-8515

会議の内容(要旨)

(スポーツ振興課長)

辞令交付後、会長と副会長を互選にて選出する。

会長の職は、委員からいただいたご意見を集約するとともに、議長として会の進行をお願いする。

副会長は会長を補佐、会長不在の際は会長を代理する役割がある。

1 辞令伝達

2 挨拶

<田中良明副市長から辞令伝達>

(スポーツ振興課長) 本審議会は、現在定員の過半数の出席があるので、立川市スポーツ推進審議会条例第5条第2項の規定により、成立していることを報告する。

3 委員の紹介

<各委員あいさつ>

<事務局あいさつ>

4 会長、副会長の選出について

専門的見地をお持ちの和光大学教授原田尚幸様に会長職、地域における活動にご尽力をいただいている特定非営利活動法人立川市体育協会会長の芦澤清八様に副会長職が決定

5 立川市スポーツ推進審議会委員について

<スポーツ振興課長より資料4に基づいて説明>

<質問、意見なし>

6 立川市第4次長期総合計画と第2次スポーツ推進計画の関係について

<スポーツ振興課長より参考資料5(冊子)、資料5・6に基づいて説明>

<質問、意見なし>

7 立川市第2次スポーツ推進計画の概要と進捗状況について

<スポーツ振興課長より資料5、6に基づいて説明>

(渡邊委員) 資料5の実績データは令和3年度までしか掲載されていないが、次回の審議会までに令和4年度までに更新されるのか。

(スポーツ振興課長) そのとおり、資料5を令和4年度の実績に更新する。

(原田会長) 週1回のスポーツ実施率について、平成30年度以降は出ているが、計画をたてた27年度は何パーセントになるのか。

(スポーツ振興課長) 以前のスポーツの定義が厳しかったため、単純比較できる数字ではない。勝敗を競うものだけではなく健康を目的に行われる身体活動や遊びや楽しみを目的とした身体活動を含め、ウォーキングやストレッチ、通勤時などの自転車利用も含むというようなところまで定義を広げたということで、平成30年度にスポーツ実施率が上がった。現状とはその30年度と比べても上がっているという状況がある。

(原田会長) 70パーセントという目標値は、都か国が出している数値と思うが、立川市として何パーセントを求めているのか。数字に追われてしまい、何のためにこれをやるのかということになる。数字が独り歩きして、達成していないからダメだということでもないと思われるが、数字の議論はどうなっているのか。

(スポーツ振興課長) 数字に引っ張られて来たというのが現状だと思うが、する、見る、支えるを、何のためにやるのかという目的の中で総合的に推進をしていくというような議論は進めてきたところである。

(原田会長) 歩行距離に応じてそれがポイントになって、amazonギフトに交換できる仕組みを検討するのもよい。忙しさで運動、スポーツをやらないということを克服することができるのではないかと。貯めたポイントで、立川市で買い物に割引で使えるというようなことも考えられる。すでに行われている自治体もある。一時、ポケモンgoが流行り、外へ出て歩く距離が増えたという事例もあり、市民の皆さんが面白と思うようなものがもっとあればよいと思う。ポッチャにしても、もはや障害者スポーツの枠に収まらなくなっており、障害の有無に関係なく、みんなでできるので、ララポートでストリートポッチャのよ

うに、買い物に来た人たちが気軽にできるのをやるなど、健常者、障害者の枠にとらわれない、多様なやり方をできたらよい。

計画を立てて終わりではなく、立ててからどうするか。計画が実現した先に、市民の皆さんにどんな、いいことがあるのかということを検討できればと思う。国内外のスポーツ施設を見ても、単に器を作れだけではなく、その器を使って、運動技術の向上だけではなく、地域の活性化などもセットで、考えられている事例が出てきているので、立川でも、次の計画の中で検討していきたい。「運動しましょう、スポーツしましょう」という掛け声だけでは他人事になってしまう。やらない理由ををあげるだけではなく、いかに自分に置き換えて、意識して活動してもらえるかという、仕掛け考えられたら良い。各委員の持っているバックグラウンドや、普段の活動の場が違うと思うので、それぞれが抱えている課題を解決することが全体の解決につながることも近道になるかもしれないのでお話を伺えたらよいと思っている。

(原委員) 我々の運営している立川ダイスはまだ知名度が低いので、小学校の校長会などをお願いして、選手が回って、実際に会って、1つずつ伝えていくという活動をしているが、伝わることで観戦に来てくれる人が増えていてと感じている。伝えるということが大事だと感じるので、市の事業でもSNSを展開するなどの工夫はあるとオムがそれだけでは難しいと思うので、我々に伝えていただき事業の予定などをアリーナ立川立飛に貼る等、協力してお互いに伝えていくというようなことができればよいと思う。メインの事業ではないが相互に伝えあうというようなことをみんなで議論できれば良いと思う。もし今、市の事業で伝えるものがあれば教えてほしい。

(スポーツ振興係長) 9月から3月の事業についてお知らせする。

(原田会長) 市にとって、そういうプロスポーツチームがあるというのは財産である。競技そのものよりも、プロスポーツチームが出前のように地域に出ていくことで、地域の子ども達などに必要なことを届けることができるのではないかと。

保護者の皆さんは徒競走のためにタイムが出るという靴を買ったりしている。バスケットをやれば身長が高くなるわけではないが、プロバスケットチームの人は身長が高くなるためにはどうしたらいいかというテーマで人を集めて、その中で食育やトレーニング方法など有用な内容を伝えることも考えられる。選手は難しいかもしれないが、トレーナーとかコーチ、マスコット、チアリーダーなど、プロチームは色々、資源を持っている。部活動の地域移行なども見据えて準備してはどうか。

アメリカの例で言うと、社会問題である小児肥満を解決するために、1日60分運動しましょうというキャンペーンを展開していて、地域ごとにプロチームが関わり、スポンサーがついていて、お金を出しているというやり方もある。立川でも、市民・子供たちや、スポーツ推進のために、プロスポーツチームなどが人材を派遣する、必要経費にスポンサーとなってくれる企業はあると思われる。そういう仕組みを、プラットフォームを作って、実行に移していくという形がどんどん増えてきている。皆さんに、新しい機会を提供できればという風には思う。

(出倉委員) スポーツは仕事や義務ではなく気晴らしや楽しみであるという説があり、第2スポーツ振興計画にあるように、「だれでも」、「どこでも」、「いつまでも」、老若男女、気晴らし、楽しみ、仲間との交流などを目的に、スポーツを楽しみ、健康の維持などにつながることに期待している。教育の場でも一輪車や着衣泳等新しい取り組みが広がっている例がある。プロ野球からサッカーそして、今、バスケットがはやってきているが、バスケットで最も強いアメリカでは町中にバスケットゴールがたくさんあると聞いた。そういった環境の整備も大事なのではないかと。

(原田会長) スポーツの語源自体が、さかのぼれば気晴らしに行きつき、気晴らしや遊びである。スポーツの定義をどう捉えるか。Eスポーツはスポーツなのか、アジア大会で競技になっている囲碁はスポーツなのかという議論があるが、定義を広げるか狭めるかの違いであって、何をどうすればいいのかというところで考えていくと、率も意味も出てくるのかなと思う。

(渡邊委員) スポーツとはというお話があったが、立川市でもグリーンスプリングスで飲食店に立ち寄ったついでにボッチャ体験できるイベントがあった。将来的に障害者スポーツの普及というところで障害者がどうしても関わる必要はあるが、やはり限界がある。イベントではなくて、そういう商業施設が常設としてあったらいいのではないかと。また、資料の令和5年度取り組み事業、地域スポーツ教室について、地域スポーツ事業は年何回あって、どんな地域スポーツが行われるのかとか、見てわかって把握することができるように、もっと活発な議論に繋がるのではないかなと思う。今、項目で列举されている内容が、実際に令和5年度はどのぐらい、何回ほど予定されているのかとか、そういったものがもっと目に見えるようになれば、もっとより良い議論ができるのではないかなと思う。

(スポーツ振興課長) 地域スポーツ教室の予定というのは、なかなか把握しづらい部分があるが、実績というところでいけば、今度の令和4年度実績という中で、各地区で行われている教室というのも見える形でお示しできればと、そこは工夫させていただければと思う。

(永島委員) 自治会では運動会を含めて、ソフトバレー、ボッチャ、グランドゴルフ等複数の種目に取り

組んでいるが自治会によって人数が集まる場合や大勢集まる場合などばらつきがあり、希望者が多いと参加したい人には物足りなく、種目によっては人が集まらない種目もある。多いチームからほかのチームへ助っ人に行って活躍すると恨まれることなどで思い切り活動できないケースもあるようだ。今後どうやってみんなが参加できる楽しい大会にできるか検討していく必要がある。

8 今後の予定について

＜スポーツ振興課長より資料7・8に基づいて説明＞

（出倉委員） 市民アンケートとパブリックコメントの違いを確認したい。

（スポーツ振興課長） 市民アンケートというのは、あくまで設問があり、その設問に対して、18歳以上の無作為抽出した市民の方にアンケートにお答えいただくものである。パブリックコメントは、そのアンケートやこちらの審議会でご意見をいただいたその計画というのを素案という形でお示しする。その素案に対するご意見をいただくという自由記述の形がパブリックコメントとなる。

9 各委員からの情報提供等

（永島委員） ソフトバレーボールの大会を開催した。新型コロナウイルス対策で午前中を中心にした大会になった。時間が短縮されたが選手たちには意外と好評だった。町民運動会も午前中で実施し、雨天時のお弁当を準備していたのに余るという問題の解決にもつながった。

（原委員） スクール教室に子供の入会がものすごく増えている。イメージとしては、体を動かす楽しさというのは、変わっていかないのではないかな。プロ選手と会うことで、僕もやれるという気持ちにつながるなどができればと思っている。

（森川委員） スポーツによって体を壊すことがないように予防対策が必要である。熱中症対策では5月～6月に暑熱順化をして、時間をかけて体を慣らしていただきたい。感染症対策については、5類になってもコロナはまだ終わっていない、症状が別に軽くなったわけでもない。高齢者では死亡者が増えている。スポーツしているときにマスクをしていられないため、感染防止は危ない状況である。この時期に普通は流行らないが、今すごい勢いでインフルエンザが流行している。この時期に流行するのは不思議なことである。今まで厳しい感染予防対策をしていたが、5類移行に伴い、もう大丈夫と安心して生活が乱れ、解放されたことによる。良いことだが、ある意味、感染を広げる危ない状況にあるということを認識してほしい。

（原田会長） 専門的な知見の情報提供っていうのを機会だけでなく、情報もきちんと正しく伝えるということが大事なことがわかった。

（山浦委員） 地域保健医療推進プランの改定作業があり、立川市にも連携していただき、反映していただきたい。地域保健医療推進プランは、来年度の下半期に完成する予定である。成人病予防を徹底して、健康寿命を伸ばし、いかに元気に長生きして生活できる環境をつくってまいりたい。

（渡邊委員） 6月に福島県でボッチャの東日本予選会と全日本選手権に出場するために選手選考大会があった。ポルテ多摩という立川市を含めた多摩地区の選手を集めたクラブチームから6名参加して、うち5名が予選を通過、2名の新人選手がいるので、計7名が全日本選手権の大会に出場する。ボッチャに出会うまでは、車椅子を自分で自走したりすることができない選手がとて多く、スポーツというのは、自分でするものではなくて、見るものだと思っていた選手がほとんどだが、ボッチャを通して見るものから障害があっても自分がこんなことができると感じることができる。立川市においても、ますますの普及繁栄をしていければと思っている。

（スポーツ振興課長） 市長公約の中にスポーツを通じた健康増進、医療とスポーツの連携などにも触れているが、今後、どうしていくのか、皆さんのご意見もいただきたいなと考えている。

一方、ハード的な面で言うと、体育施設の老朽化が課題となっている。現在、令和7年度に柴崎市民体育館を改修するというので、設計を進めているところだが、プールも含めて改修するのは、非常に金額が多額になっており、今後、スポーツ施設を維持し管理していくということは、非常に大きな課題になっている。スポーツ施設の機能再編などについても、皆様にご議論いただければと思う。また、現状についても、皆さんに情報で提供できればと考えている。

（出倉委員） 学校の特に小学校のプールの老朽化が全国的にあって、夏しか使わないのに年間通して維持管理をしなければならず、なおかつ低学年と高学年で、水位を上げ下げ調整しなければならないため水量と水道料の問題がある。どこかの自治体で進めているように、地域のスイミングスクールに行き利用する方がいいのではないかなという話もある。そういったことについても、この場では、話の議論になるのかを質問したい。

（スポーツ振興課長） 学校施設に関わることで、直接的にはこの場の議題にはならないが、課題として認識している。立川市でも小学校2校ほど、民間プールへバスで行ってプール指導を受けている。試

行的にやっていることはあるので、状況を踏まえて、今後、どういう方向性に持っていくのか、小学校のプールをどうしていくのかというのは、別のステージでも検討をしている。

（出倉委員） 健康会館の健康支え隊や社協の体操メイト（立川市で独自の健康体操を作っている）にも参加している。連携の施策というか、そういったものは、今後、この場での議論の中には入ってくるのか。

（スポーツ振興課長） スポーツの定義がかなり広がっているので、我々の部署だけではなく健康等の部署をはじめ、医療、保健所、社協など様々な外部資源があり、そういったところとの連携をしていくことは考えられる。スポーツを通じて何のため、どこを目的にしていくのかということはこの場でご議論いただければと思う。

（福原委員） 立川市の教育委員会では学力の向上と体力の向上を目標に掲げている。体力についてお話をすると、全国の体力調査の結果がここ数年コロナの影響で下がってきている。夏の暑さも問題で、晴れていても校庭で遊べない、体育の授業ができない、活動ができない、ましてやプールも入れないというような気候の変動もある中で、いかに子供たちが活動できる場を増やしていくかということも大切なところだと思う。学校施設を有効に活用する、活動場所を確保していくというようなことも考えていく必要があるだろう。

（松原委員） スポーツ推進委員の事業として、11月にあるけあるけ運動を開催する。何十年も行われている事業で、今まで高齢世代の参加が多く、若い方や子供連れにも参加してもらうため、昨年、多摩動物公園ウォークの実施にあたり、入園無料の日を選び、広報・チラシ・ホームページにQRコードを載せて、そこから参加申込してもらう形を取ったら、多数の参加者が集まった。ご高齢の方から子連れ、しかも幼稚園ぐらいまでの、200人近くが参加した。様々な世代から参加者の集客ということで、今年の企画を検討した際、ただ歩くだけではなくて、周辺の見るものも取り入れた。高齢者ももちろんだが、もう少し親子を対象に、若い世代の人たちにも参加してもらいたいというのがあり、集客と企画の伝え方というかアピールの仕方が重要だと考えている。

（原田会長） 以前、7か国、40～42ぐらいのスタジアムを見て回った。今年も、1年間の学会研修期間をいただき、新しいスタジアムを中心に回っているが、器がどんなに良くても、それをどう生かすかということが大事になる。日本国内でも、例えば今治のサッカーの里山スタジアムへ行き、その地域の実情に即した、器であれば別にそんなお金をかけなくて立派なものではなくても、使い方次第だなという風に感じた。海外でもプレハブのようにお金をかけないようなスタジアムでも、そこに地域の人たちが集まっているような場面も何度か見た。FCバルセロナのような10万人集まるようなスタジアムにも行ったが、あれは別格といえる。今の立川に何が還元できるかと考えると、市民の皆さんにとってみたら、公共サービスか民間サービスかは、あまり関係いので、市として官民協力して、スポーツ振興を推進できるような仕組みなりができればいいかなと思っている。アリーナ立川立飛へまだ行ったことがなかったので、いい機会だと思ってダイスの試合で10月に行く。今週末に福岡へ行ったり、10月に京都の亀岡や佐賀の新しいスタジアムを見て来ようと思っている。そこで、見聞きしたものは、この審議会に還元できるかなと思っている。

（芦澤副会長） 先ほど稼働率、スポーツ実施率の数字ばかりを気にするのは何か違っているようだという話があったが、私自身も感じている。東京都なり都体協の方が数字を求め、それは予算の問題があるものだから、どうしても数字を追ってしまう。ウォーキングやラジオ体操等もスポーツ実施率に含まれる状況であるならば、先程言った、ストリートボッチャなどで、どんどん実施率を上げていくというのは、一つの切り口ではないかと思う。数字を追わなければいけないという事情がありつつも、原点に戻って、楽しい、面白いってことを求めていけば、結果的にスポーツ実施率につながっていくと思う。10月9日に泉市民体育館で立川市体育協会の加盟団体が競技の無料体験してもらおうイベントを実施する。例えば合気道などは練成館のように専門の施設ではない場所で気軽にやってもらう良い機会となる。泉市民体育館まっすぐに興味を持っていただければと思う。

10 その他

（スポーツ振興課長） 次回審議会は、10月26日（木）午後7時、泉市民体育館・研修室で開きたい。議題については、次の計画に向けた課題についてと、来年の1月に発送を予定している市民アンケートの設問をお示ししたい。また、第2次スポーツ推進計画の令和4年度実績を資料としてお出ししたい。

閉会